

「ニーズ解釈の政治」からみたソーシャルワーク役割に関する予備的考察

－「きょうだい児」の支援を手がかりに－

○ 東北福祉大学 黒田 文 (会員番号 2095)

キーワード：ニーズ解釈の政治、ソーシャルワーク、きょうだい児

1. 研究目的

本報告では、フレイザー (Fraser 1989, 1992=1999) による「ニーズ解釈の政治」の概念を手がかりに、「きょうだい児」支援におけるソーシャルワークの役割を捉え直す予備的な考察を行う。「きょうだい児」とは、障害や病気のある子ども（障害や病気のある子どもについては「同胞」と表現）の兄弟姉妹を指す言葉である。障害のある人の兄弟姉妹に対する支援の必要性は1960年代後半から指摘され始めているが、「きょうだい児」の支援活動が活発化したのは1990年代後半からで、その展開はセルフヘルプグループが中心であった（松本, 2013）。「同胞」の障害や病気をきっかけに兄弟姉妹関係に配慮が必要になることは決して珍しくなく、子どもの虐待や貧困といった状況とともに、「きょうだい児」であるという立場も、子どもが心身の健康を害するリスクファクターになると捉えられる（湯浅, 2024）。本研究では、社会的にみて支援が浸透していない「きょうだい児」への支援についてニーズ概念の観点で予備的な考察を行う。

2. 研究の視点および方法

ニーズは、それを解釈し、再定義する言説によって構成されたものであるであるという「ニーズ解釈の政治」の概念を手がかりに、ニーズ概念について整理を行い、ニーズの捉え方が「きょうだい児」支援へどのように影響するかを検討する。研究方法は文献研究である。

3. 倫理的配慮

本研究は文献研究であるため、人間や生物等を対象にする際の倫理的配慮は必要としていない。研究遂行に際しては、日本社会福祉学会倫理規定および研究倫理規定にもとづく研究ガイドラインを遵守している。本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はない。

4. 研究結果

2015年の児童福祉法の改正では、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の介護者支援事業として「きょうだい児」への支援を実施することが可能になった。他にも、放課後等デイサービスガイドライン（2015年）、児童発達支援ガイドライン（2017年）においても、保護者のみならず、兄弟姉妹を含めた家族への支援を実施することの必要性が示されている。しかしその一方で、「きょうだい児」支援の必要性が、保護者や福祉施設職員、学校教

員などに認識されておらず、「きょうだい児」が障害児・者の支援のリソースとして度を越して利用されたり、そうなることを奨励されていたり、「きょうだい児」が支援に協力しない場合に批判されるケースも報告されている（北海道きょうだいの会, 2023）。このような現状に対して、「きょうだい児」のニーズを公共のものとしてどのように理解し、浸透させていくのかという課題が浮かび上がる。「きょうだい児」のニーズに対する理解や解釈を深めるために、フレイザーによるニーズ議論、特に「ニーズ解釈の政治」の概念を手がかりにできると考えられる。三浦（1998）が「ある種の状態が、一定の目標なり、基準からみて乖離の状態の回復・改善等を行う必要があると社会的に認められた」場合に、その状態をニード（要援護状態）とすることができると言及しているように、ニーズの捉え方には社会構築的な側面がある。フレイザー（1992=1999）は、ニーズをめぐる語られる何らかの問題について、「公共的に対応すべきものと解釈する言説」と「私的な家庭内の問題と解釈する言説」のせめぎ合いが存在することを「ニーズ解釈の政治」と称し、ニーズに付与された解釈を読み解いていくことで、解釈に埋め込まれている力学を理解することが可能であると指摘する。

5. 考察

「ニーズ解釈の政治」にもとづく、社会やソーシャルワーカーが課題に横たわるニーズに対してどのような「解釈」を行っているかにより、その後の支援行動が変容すると考えられる。「きょうだい児」の支援を手がかりに、当事者である「きょうだい児」にとって適切な支援は何か？を考えるためにも、ソーシャルワーカーは、「きょうだい児」のニーズという言説の資源が、公共の言説空間で偏った仕方で配分されていないかということも考慮して支援を構築することが求められる。

参考文献

- Fraser, N. (1989) *Unruly Practices: Power, Discourse and Gender in Contemporary Social Theory*. The University of Minnesota Press.
- Fraser, N. (1992) *Rethinking the Public Sphere: A Contribution to the Critique of Actually Existing Democracy*, Craig Calhoun ed. *Herbermas and the Public Shpere*, the MIT Press. (=1999, 山本啓・新田滋訳「公共圏の再考-既存の民主主義の批判のために」『ハーバースと公共圏』未来社)
- 松本理沙（2013）「障害者のきょうだいを対象としたセルフヘルプグループの役割」『評論・社会科学』104, 109-41.
- 三浦文夫（1998）『増補改訂社会福祉政策研究福祉政策と福祉改革』全国社会福祉協議会
- 齋藤純一（2000）『公共性』岩波書店
- 湯浅正太（2024）「“きょうだい児”支援にとって欠かせないもの」『チャイルドヘルス』27(1), 6-9. 診断と治療社.